

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

「第8回熊本大学フォーラム」を ベトナムにて開催

12月4日及び5日、ベトナムの首都ハノイにおいて、「第8回熊本大学フォーラム」を開催しました。同フォーラムは熊本大学の国際的なプレゼンスの向上、国際交流ネットワークの拡充、さらに人材交流の促進を図るため、平成15年度より国内外の各所において開催しているものです。

熊本大学は多くのベトナム人留学生を受け入れており、ベトナムに6校の交流協定校を持っています。近年発展がめざましいベトナムは本学でも重要な交流国のひとつであり、また、今年ハノイ建都1000周年の記念すべき年でもあるため、ハノイでのフォーラム開催が決定しました。



ポスター展示による学生発表(写真右は入口附属図書館長)

フォーラム初日は、本学の交流協定校であるハノイ建設大学内において本学谷口功学長と Le Van Thanh ハノイ建設大学学長の挨拶で始まり、参加校の学生による研究発表および研究者による発表がありました。研究者による発表においては、ハノイ建設大学の Plam Hung Cuong 副学長、ベトナム国立大学の Pham Hong Tung 教授 他、本学の西山忠男大学院自然科学研究科長、原田信志大学院生命科学部部長、岩岡中正大学院社会文化科学研究科長らによる基調講演および古川憲治副学長による大学紹介が行われました。学生発表では、熊本大学・ハノイ建設大学・ベトナム国立大学・ホーチミン工科大学から参加した50名以上の学生が口頭・ポスターにより、日頃の研究成果を発表しました。

フォーラム二日目は、ハノイ市内のホテルに会場を移し、ベトナム環境資源省の Bui Cach Tuyen 副大臣、在ベトナム日本国大使館の谷崎泰明大使、JICAベトナム事務所の清水暁次長、ベ



記念撮影



調印式 左よりホーチミン工科大学 Vu Dinh Thanh 学長、ハノイ建設大学 Le Van Thanh 学長、熊本大学 谷口功学長、フエ大学 Le Manh Thanh 副学長

トナム国立大学ハノイ校の Mai Trong Nhuon 学長から祝辞をいただいた後、熊本大学の研究・教育について本学の安部眞一理事・副学長、山村研一理事・副学長および入口紀男図書館長等による発表があったほか、高等教育コンソーシアム熊本の教育・研究事業の紹介について講演が行われました。また、大学間交流協定の調印式が行われ、現在工学部・大学院自然科学研究科との間に部局間交流協定が締結されている、ハノイ建設大学・フエ科学大学との交流を大学間交流協定へ移行し、更に、ホーチミン工科大学との間に大学間交流協定を新たに締結しました。調印式では各大学より学長・副学長が出席し、今後の相互の大学の発展に向けて協力することに合意しました。

熊本県・熊本市・日越の企業関係者等の参加によるパネルディ



熊本大学の魅力を PR する本学スタッフ

スカッションでは、日越交流の発展について活発な議論を交わしました。フォーラム会場では熊本大学の紹介のほかにも、高等教育コンソーシアム熊本、熊本県、熊本市及び熊本県内の企業の紹介ブース等が設置され、現地の来場者へ向けて熊本地域の魅力を発信しました。

本フォーラムでは二日間で当初の見込みをこえる約520名の参加者が来場しました。また、現在ベトナムの大学や企業で活躍している留学生 O B ・ O G も来場し、交流を深めました。今回のフォーラム開催を通じて、熊本大学とベトナムの大学間のさらなる関係発展が期待されます。また、今後の熊本—ハノイ、日本—ベトナムの関係発展についても意義深いフォーラムとなりました。

平成22年度留学生交流パーティーを開催



歓談する参加者ら

12月13日、本学工学部百周年記念館において、留学生交流パーティーを開催しました。熊本大学では、異なる生活環境の中で勉強・研究に励んでいる留学生を励ますと共に、留学生と指導教員・チューター及び学外関係者が一堂に会し、相互の交流と親睦を深める目的で、本交流パーティーを毎年実施しています。

当日は6組の留学生グループによる、伝統的な音楽の演奏・歌やダンス等のパフォーマンスが披露されました。また、発表内容については、投票の結果、最も得票数の多かったグループに、谷口学長から留学生パフォーマンス大賞が贈られました。その他、抽選会等のイベントも行われ、会場は約400人の参加者で大いに賑わいました。



インドネシアからの留学生らによるパフォーマンス

留学生パフォーマンス大賞受賞したポーランドからの留学生（写真中央）



朝鮮大学校訪問団が来学

11月11日、本学と交流協定を締結している朝鮮大学校（韓国）から15名の学生訪問団（引率教員2人、学生13名）が来学し、本校学生及び教職員との交流会を実施しました。交流会には、朝鮮大学校から本学に留学中の学生2名及び韓国の他大学から本学に留学中の学生3名を含めた、本学学生15名が参加し、英語や韓国語による自己紹介および両大学の紹介を行い交流を深めました。

その後、学生訪問団は、キャンパスツアーにおいて、五高記念館の旧教室で記念館の歴史等について学び、館内見学を行いました。キャンパスツアー後は会場に戻り、和やかな雰囲気の中、両校間で活発な情報交換が行われました。



五高記念館旧教室にて

平成22年度海外留学成果発表会を開催

12月15日、本学黒髪キャンパスくすの木会館レセプションルームにおいて、海外留学成果発表会を実施しました。

本成果発表会には、協定校へ交換留学生として派遣された学生による留学先言語での発表および協定校での海外語学セミナーやサマープログラムに参加した学生による日本語での発表が行われ、留学希望者など約60名が参加しました。

総評では、本学谷口学長より、海外に積極的に出ることや海外での人材交流とネットワークづくりの大切さについての話がありました。

国際化推進センターでは、成果発表会で来場者に配布した留学経験者による「海外留学成果報告書」を毎年作成しており、希望者には随時配布しています。



谷口学長と記念撮影

谷口学長、韓国・KAIST主催の「2010国際学長フォーラム」に出席

本学と大学間交流協定を締結している韓国科学技術院（KAIST）主催の「2010国際学長フォーラム」が10月11日、韓国・ソウルにおいて開催され、本学から谷口学長が出席しました。

KAISTと本学は平成13年に部局間交流協定を締結以降、非常に活発な研究者・学生交流および共同研究を行ってきました。本フォーラム参加を通して、本学谷口学長と韓国科学技術院のNam Pyo Suh学長は両大学が引き続き友好関係を深めていくことを再確認しました。

古川副学長、北京工業大学創立50周年記念式典・国際学長フォーラムに出席

本学と交流協定を締結している北京工業大学（中国）の創立50周年記念式典・国際学長フォーラムが10月15日～16日に開催され、本学から古川副学長が出席しました。

国際学長フォーラムには、中国国内外の大学から学長・副学長らが参加し、フォーラムのテーマである“国際化の広がる状況下での地域経済発展及び人材育成における大学の役割”について講演を行いました。また、パネルディスカッションでは、古川副学長が本学の国際化推進の取組について紹介し、他の参加者と活発な意見交換を行いました。二日目に開催された式典には、中国関係省庁等からの来賓、協定校の学長・副学長等が参加し、創立50周年の節目を祝いました。

安部理事、インドネシア・ITS主催の国際学長フォーラムに出席

本学と交流協定を締結しているインドネシア、スラバヤ工科大学（ITS）主催の国際学長フォーラムが11月8日～10日に開催され、本学から安部理事・副学長が出席しました。フォーラムには11ヶ国から41大学の学長・副学長が出席し、フォーラムのテーマである高等教育の質の向上に向けての持続的な発展およびネットワークの構築について講演及び活発な議論交換が行われました。

スラバヤ工科大学と本学は平成16年に交流協定を締結以降、熊本大学フォーラムの共催、スラバヤ工科大学内に本学のオフィスを設置するなど活発な交流を行ってきました。本フォーラムへの参加を通じて、本学とスラバヤ工科大学のさらなる関係強化および連携が期待されます。

「教育の国際化推進のための海外FD研修」 および研修後報告会を実施

本学は各国における高等教育の急速な国際化の潮流に適応し、世界の優秀な学生・研究者が集う大学のモデルとなることを目指して様々な取組を行っています。

その一環として、この度、英語による国際教育プログラムの拡充と教育体制の整備を進めるために、本学教員4名を協定校であるカナダのアルバータ大学へ派遣し、英語による教授力・コミュニケーション力の向上を目的とする2週間の海外FD研修を実施しました。

初回となる今回の研修は、英語による教授法の講義、授業見学、最終発表会などを盛り込んだプログラムにより、9月23日から10月6日まで実施されました。帰国後、派遣教員からは、学生の積極的な参加を促進する方法やIT技術の活用法など、様々な事を学び大変有意義だったという感想が寄せられました。

また、11月9日には、本学にて研修後の報告会を開催し、41名の教職員が参加しました。報告会では、谷口学長、古川副学長による開会挨拶後、派遣教員により、①研修の概要、②グローバル教育のための教授法、③グローバル教育におけるITの活用、④アルバータ大学の教育風景、というテーマ別に発表が行われました。

今後は、本研修参加者が中核となって国際教育プログラムの充実に向けた活動を推進し、国際的な大学づくりが進むことが期待されます。第2回目の研修は平成23年3月に、アメリカのカリフォルニア州立大学フラトン校で実施予定です。



アルバータ大学での研修の様子

22年度9月期 海外FD研修を終えて
大学院自然科学研究科 斉藤寿仁 教授



研修受講の効果についてお聞かせください。

研修先のアルバータ大学の学生・教員は様々な人種で構成されており、本学のグローバル化戦略を考える上で一つの良いお手本になると思います。研修では教育現場におけるインターネットの活用法や先進的なI-Clickerシステムの最前線を知ることができ、多様な文化的背景と英語を第2母国語とする学生を対象とする授業の進め方について多くのヒントを得ることができました。なによりも、アルバータ大学の教職員との交流の中から、グローバル化の実態(良い面と問題点)を肌で感じられたことは有意義でした。

本研修をどのように活かしていきますか。
また、どのように国際化推進に携わっていきますか。

研修を通じて、グローバル化した社会ではクリティカル・シンキングのできる人材が求められているように感じました。アルバータ大学では教員の多くが、こうした考え方をどのように学生に身につけさせるのかにずいぶんと心を砕いているようでした。本学においても、クリティカル・シンキングを学生に意識させ、最終的にはこうした考え方を身につけさせるような授業を行っていくことが重要なのではないかと考えます。加えて、研修ではソーシャルメディアを通じた情報提供が多様な文化と英語を第2母国語とする学生が混在する教育環境において重要な役割を持つことを学びました。

今後は授業におけるソーシャルメディアの活用についても積極的に考えていきたいと思っています。また今回の経験と研修で学んだことを生かして、23年度に私が担当する学部1年生向けの生物の講義コースの中で、英語での授業を数回でも取り入れられればと考えています。

「熊本留学生交流推進会議」主催の 留学生シンポジウムへ本学留学生が参加

12月18日、熊本市国際交流会館で熊本地区留学生シンポジウムが開催され、地域住民および熊本県内の高等教育機関に通う留学生ら約150名が参加しました。

第一部(午後1時～2時半)は「留学生と語ろう!世界の食文化～私の思う「日本の餅(Mochi)」～」と題して、パネルディスカッションを行い、本学留学生2名を含む6名の留学生が日本の餅との出会いについてユーモアを交えながら、流ちょうな日本語で説明しました。留学生らは蜂蜜やビーナッツバター、カレー等、日本の餅に付けて食べると美味しいと思うトッピングを持ち寄り、その理由を自国の食文化の話を変えながら思い思いに発表しました。



餅つきに挑戦する留学生ら



パネルディスカッションにて発言する本学留学生

第二部(午後2時半～4時)では、留学生にとって初めての杵と臼との格闘の末、あんこ餅やよもぎ餅が出来上がりました。アラブ首長国連邦、中国、インドネシア、フィリピンの留学生による美味しいお茶のサービスと共に、参加者は皆、楽しい初冬の一時を過ごしました。

「くまもとを知らう!熊本城ボランティアガイド養成講座」閉講式

12月11日、「くまもとを知らう!熊本城ボランティアガイド養成講座」の閉講式が熊本市国際交流会館で執り行われ、養成講座の修了生らに本学国際化推進センター副センター長の鳥居修一教授より修了証書が授与されました。

本講座は、熊本県内の大学に在籍する留学生を対象とし、母国からの観光客が熊本を訪問した時などに、自国の言葉で熊本を案内するための知識を習得する目的で、熊本留学生交流推進会議の主催により開講されたものです。昨年6月から実施され、熊本大学の留学生4名を含む20名の留学生が受講しました。

受講生らは講義及び実地研修を通して熊本城について学ぶとともに、日本の歴史についての理解を深めました。



五所直久講師による実地研修

お知らせ

平成22年度外国人留学生実地見学旅行

日本の歴史・文化・風土等について理解を深めるとともに、留学生間及び日本人学生との交流を図るため、平成23年2月中旬に福岡・山口方面に実地見学旅行を計画しています。なお、参加人数は120名を予定しています。

ボン大学・リーズ大学での 日本語教育調査

国際化推進センター・国際語学部門
今西利之講師 マスデン眞理子講師



リーズ大学の日本語の授業

10月31日から11月5日にかけて、国際語学部門の日本語担当教員2名が、リーズ大学(イギリス)とボン大学(ドイツ)を訪問しました。両大学には日本語や日本文化に関する分野を専攻とする学科や研究所があり、毎年それぞれ3名から5名の学生が交換留学生として本学に留学しています。今回の訪問は、これらの交換留学生に対し本学と原籍大学で一貫した日本語教育が提供できるよう、日本への留学前および留学後に原籍大学でどのような日本語教育を受けているのかを知ること、また両大学の日本語担当教員との日本語教育分野での連携を深めることを目的としていました。

両大学関係者のご協力により、日本語初級から上級の会話や文法の授業をはじめ、リーズ大学では日本文学(三島由紀夫の『憂国』)、ボン大学では日本史概説の授業などを見学することができました。語学の授業では両大学とも、相互理解のために日本語を使って何がどのようにできるかという能力の向上に重点が置かれており、初級レベルの授業でもこの点が学生に明確に伝わるよう工夫されているのが印象的でした。

また、日本語教育担当者とは、お互いの日本語教育のカリキュラムについて具体的な情報交換を行うとともに、日本語教育に関する諸問題について意見交換を行うことができました。



ボン大学の日本語の授業

日本人留学生体験談 中国留学体験記

工学部 数理工学科 4年
西山 顕政

平成21年9月から約1年間中国の同済大学に留学しました。これまであまり日本を出たことがなかったので日本の外に出て視野を広げたいと思ったのが留学のきっかけです。中でも中国を選んだのは、中国は今日最も勢いがある大国であり、日本人にとっても中国なしでは生活できないほどに密接にかかわっている国でもあり、日本文化のルーツでもある国であったためです。

私は留学前には中国語をあまり話すことはできず、留学当初はコミュニケーションを取るのに苦労しました。いつも身振り手振りでコミュニケーションを取っていたので、本当に中国語が話せるようになるのか不安でした。そこで、このままではいけないと思い積極的に中国人と会話したりルームメイトと練習したりしているうちに留学して半年後には日常会話なら困ることなく話せるようになりました。

大学では中国人は勿論、様々な国の人と友達になりました。色々な国、色々な境遇の人から話を聞くことで、自分が今までどれだけ何も知らない人間だったのか思い知らされました。日本で当たり前であることが世界では当たり前ではなく、世界で当たり前のことが日本では当たり前ではない。こんなことを何度も経験しました。

私は留学の最大の魅力は、自分と違う国の人と交流出来ることだと思います。留学が終わった後、私はドイツに旅行に行き、ルームメイトの家に泊まってドイツを案内してもらったり、他のヨーロッパの国と一緒に旅行したりしました。私はよい友達を見つけることが出来て本当に良かったと思います。今でも私たちの交友は続いています。留学とはまさに「世界が広がった」経験でした。



留学生からのメッセージ

大韓民国 俞仁植(ユウ インシク) 医学部 保健学科 特別聴講学生

日本に来たばかりの時、一番大変だったことは日本語でした。保健学科の留学生は私一人であったため、初めは苦労しましたが、沢山日本人の友達が出来たため、日本語を早く学ぶことができました。



後列左が仁植さん

初めは授業が聞き取れなくて大変だったし、レポートを書くのも一苦労で、どこから手を付けたらいいかわからない状況で、チューターと担当の先生が手伝ってくださり、多くの日本語を学ぶことができました。親しくなった友人達と一緒に旅行も行って、授業以外の時間にも交流して、日本の文化が分かるようになって、非常に嬉しかったです。また研究室に入れたことにより、勉強したかった分野を深く研究できました。卒業論文の発表、研究室学会などの日本研究室の全般的なことを見られたのは、大変良い経験になりました。

今は日本の留学生活に慣れ、熊本大学だけではなく、他大学の日本人学生達とも交流しています。その中で日本の友達の家に招待してもらったり、招待したりしながら多くの日本文化に触れています。このような日本生活を可能にくださった先生と友達に本当に感謝しています。これから残った2ヶ月を一生懸命過ごして行きたいと思っています。

イギリス Katherine Helen Walters 文学部 特別聴講学生

私はイギリスから日本へきた留学生です。日本へくる前は、自国と違う文化をもつ国に留学する不安は大きく、日本語も得意ではなかったため、友達ができるか心配でしたが、乗り越し苦労でした。日本人は早口なので、最初は理解するのに苦労しましたが、沢山友達ができ、少しずつ会話ができるようになりました。



後列右がキャサリンさん

熊本大学にきて三ヶ月ですが、阿蘇山の頂上から熊本大学まで60キロの道のりを歩く遠歩など色々な経験をしました。遠歩は足が棒のようになりましたが、ゴールした時は達成感がありました。また、水前寺公園のお祭りにも行きましたが、公園は美しく、しかもイギリスではお祭りは珍しく、行ったことがなかったため良い経験になりました。着物を着る機会もありましたが、日本人は着物を着ている私たちを見て、驚いて、写真を撮っていたので、有名人のような気分になりました。



熊本は緑が多く、人が親切で、熊本城のような素晴らしい観光名所があり、熊本大学も優しい先生がいる良い大学だと思うので、このような環境で勉強できて嬉しく思います。